

日本古典籍研究国際コンソーシアム  
「日本古典籍に関する情報リテラシー」分科会（第1回）レポート

○時差の関係により、2部に分けて開催した。（参加者総数：38名＋事務局）

- ・2021年4月13日（火）21:00～22:00（日本時間）参加者：24名＋事務局
- ・2021年4月14日（水）9:00～10:00（日本時間）参加者：14名＋事務局

○この分科会の目的と期待される効果

- ・人文学教育の現場で、日本古典籍に関連するデジタル資源（デジタル画像を含む）をどのように活用することが可能か、参加者同士で具体的な事例を共有することを目的としてはどうか、という意見があった。
- ・授業を担当する教員は、色々な刺激やヒントを受けることができ、授業を組み立てやすくなる。
- ・図書館や美術館の職員は、古典籍やデジタル資源をどのように教育の側に提供することが可能か、色々な刺激やヒントを得ることができる。

○デジタル展示の共同企画

- ・この分科会の参加者たちが協力し合い、デジタル展示を共同企画してはどうか、という意見があった。
- ・分科会終了後、参加者からデジタル展示の具体的なテーマ（医学古典籍のデジタル展示）についてコンソーシアム事務局にメールで提案頂いた。

○書誌（メタデータ）の作成と用語の問題

- ・フランス語圏、および英語圏に所在している美術館や図書館で、フランス語・英語に対応した日本古典籍の書誌（メタデータ）作成に従事している参加者から、書誌（メタデータ）の入力方法や日本書誌学用語の外国語訳などについて、研究者をまじえて相談できる場がほしい、という意見が複数あった。
- ・この分科会とは別に、「書誌学用語研究会」（仮称）を立ち上げてほしいと思われる。

○将来的な情報発信

- ・今回（第1回）は、各参加者の自己紹介と関心事・経験についてお話頂いた。その内容はここに詳述しないが、参加者それぞれが各地で様々な取り組みに関わってきていることが分かった。
- ・今後、分科会で情報共有された内容（参加者の関心事や経験を含む）をコンソーシアムのウェブサイト等に記載・蓄積し、情報発信できるとよいのではないかと。

○今後の分科会の進め方

- ・この分科会（第2回以降）のモデレータを担当してもよい、という方は、コンソーシアム事務局までメール頂きたい。
- ・あるいは、第2～3回ぐらいまでは、コンソーシアム事務局がモデレータを担当し、分科会が軌道に乗ってから、あらためてモデレータを募ってもよいかもしれない。
- ・開催頻度については未定。日本時間の朝と夜の時間帯で交互に開催してはどうか。
- ・4月後半に「日本国内外のくずし字教育」分科会を開催予定。将来的には、この分科会と合体させてもよいかもしれない。

以上

（文責：日本古典籍研究国際コンソーシアム事務局 2021.4.19.）